

静岡県消防協会田方支部

消防操法大会

第7分団 優勝!

5月28日、「静岡県消防協会田方支部消防操法大会」が伊東市の大室山リフト第3駐車場で開催されました。

消防操法大会は、消防技術の向上と士気の高揚を図り、消防団活動の進歩充実に寄与することなどを目的に、2年に1度開催されています。

5市1町(熱海市、伊東市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町)の代表が集う田方支部大会に、伊豆の国市消防団からはポンプ車操法の部に第7分団(原木、四日町、寺家、中條)、小型ポンプ操法の部に第1分団(古奈、富士見、壺之上)が出場。第7分団が見事優勝を果たしました。ポンプ車操法の部で伊豆の国市が優勝したのは平成19年度以来、10年ぶりの快挙です。

今回は、第7分団の皆さんに大会を振り返ってもらおうとともに、次の舞台、県大会への意気込みを伺いました。



第7分団による2線の放水

操法を終えた時点で手応えはありましたが、要員一人ひとりが自信をもって臨み、日頃の成果を発揮できたので、優勝の手応えはありました。しかし、他の消防団もかなり仕上げてきていたので、アナウンスを聞くまでは正直落ち着きませんでした。

優勝が決まった時の気持ちは嬉しい気持ちと安心感です。県大会・全国大会を目標に訓練してきた、今大会は優勝する自信がありました。しかし、それが逆に「優勝しなければならぬ」「優勝して当然」という意識につながってしまいました。決まったときは県大会に行けるといふ安心感も大きかったです。

普段はそれぞれの仕事を持つ団員の皆さん。さらに自分たちの時間を割いて訓練に励む背景には、仲間との絆とともに、「自分たちのことを知ってほしい」という強い思いがあります。

最後に、消防団活動全体を通して伝えたいことは

消防団に対してはさまざまな意見があると思いますが、プライベートの時間も削って訓練に励み、大会で優勝したこと、災害時に現場で作業していること、休日返上で頑張っていることなどを頭の片隅に置いてもらえたら幸いです。

私たちの使命は「地域住民の生命と財産を守ること」です。今大会を通じて、何かを成し遂げるには強い絆が重要であると感じました。消防団と地域住民が強い絆で結ばれ、地域が一体となることで、地元を私たち皆で守っていききたいです。

私たちの地域を代表して大会に臨む第7分団。皆で応援しましょう。



葦山時代劇場での訓練の様子



後日市役所を訪問し、小野市長の前でも意気込みを語りました。



大会出場という機会をどのように捉えていますか

操法大会は消防団員にとって最大のイベントであり、伊豆の国市消防団、そして第7分団をPRできる絶好のチャンスと捉えています。24年に1度(※)の機会を与えられたことに感謝し、10年ぶりに優勝旗を持ち帰ることで、日頃ご支援いただいている伊豆の国市に恩返しできたと思っています。(※伊豆の国市は輪番制をとっているため、同一種目で一つの分団が出場できるのは24年に1度となります。)

長期の訓練で変わったこと、訓練を続ける中で支えになったものとして、人として成長できたと思えます。また、皆がひとつの目標に向かい切磋琢磨し、これまで以上に強い絆が生まれました。

家族や地域の方々、消防団関係者、分団OBなど、さまざまな方の支えと、第7分団の仲間がいたからこそ頑張れました。



ポンプ車周りでは規律を厳しくチェック

第1分団

(小型ポンプ操法の部)

1番員が優秀選手賞に

小型ポンプ操法の部に出場した第1分団。1番員の両角幸弘さんが優秀選手賞を獲得しました。

(第1分団指揮者 大縄橋佑太さん)

要員、各団員ともに仕事や家庭がある中、限りある時間を割いて訓練に参加してくれたことに感謝しています。大会は各市町のレベルが高く、タイムの差で惜しくも3位入賞を逃す結果となりました。要員の中でも手応えがあったため、悔しい結果ではありましたが、1番員が優秀選手賞を獲得するなど、重視していた規律や声の面では他の出場分団にも引けを取らない操法ができたのではないかと思います。



火点を見据えたまま筒先員交代

(第1分団1番員)

両角幸弘さん

私が優秀選手

として表彰いただけたことで、第1分団の団員全員で少しでも良い結果を残そうと団結して取り組んできた結果が、形としても残ることとなり、とても嬉しく思っています。

当日は、とても緊張した中での競技でしたが、競技を終えた時は、みんなでやり遂げたことへの達成感が溢れてきました。これまでご指導、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。この貴重な経験を忘れず、今後の消防団活動に生かしていきたいと思



第1分団の皆さん 前列左から大縄橋佑太(指揮者)、両角幸弘(1番員)、増島清孝(2番員)、鈴木孝良(3番員)、本間健(補助員)(敬称略)



第7分団の皆さん 前列左から水野典彦(指揮者)、久保田貴大(1番員)、野中雄司(2番員)、水田信吾(3番員)、矢田耕平(4番員)、日吉大悟郎(補助員)(敬称略)



2番員の野中雄司さんは優秀選手賞を獲得